

生活科の内容はどのように変わるのか

生活科の内容については、現行では8つの内容が示されていたが、今回の改訂では9つの内容が示されている。新たに加わった内容が、視点の力を受けた(8)の「生活や出来事の交流」である。

1 内容の改善

(1) 気付きの明確化と気付きの質を高める学習活動の充実

すべての内容において、具体的な学習活動や学習対象を示すとともに、関心をもつこと、気付くこと、分かること、考えることなどを明確にした。

(2) 伝え合い交流する活動の充実

活動や体験の重要性は変わらないが、言語活動によって他者と交流して認め合ったり、振り返りとらえなおしたりすることも重要であり、新たな内容として(8)「生活や出来事の交流」を位置付けた。

(3) 自然の不思議さや面白さを実感する指導の充実

内容(6)「自然や物を使った遊び」において、身近な自然や物を使って遊びや遊びに使う物を工夫して作ること、自然の不思議さに気付くことを明示し、科学的な見方・考え方の基礎を養うことを期待した。

(4) 安全教育や生命に関する教育の充実

社会の急激な変化に対応するという視点から、内容(1)「学校と安全」に「その安全を守っている人々」を加え、地域や登下校の安全に関する学習活動が一層充実するようにした。

また、生命の尊さを実感を通して学ぶという観点から、内容(7)「動植物の飼育・栽培」の取扱いにおいて「継続的な飼育、栽培を行うようにすること」の文言を加えた。

(5) 幼児教育及び他教科との接続

学校生活への適応が図られるよう合科的な指導を行うことなどの工夫により、第1学年入学当初のカリキュラムをスタートカリキュラムとして改善することとした。

また、内容(3)「地域と生活」、内容(4)「公共物や公共施設の利用」、内容(6)「自然や物を使った遊び」では第3学年以降の社会科、理科の内容を視野に入れ、それらとのつながりを示した。

2 生活科の内容

(1) 学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活ができるようにするとともに、通学路の様子やその安全を守っている人々などに関心をもち、安全な登下校ができるようにする。

(2) 家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活することができるようにする。

(3) 自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。

(4) 公共物や公共施設を利用し、身の回りにはみんなで使うものがあることやそれを支えている人々がいることなどが分かり、それらを大切にし、安全に気を付けて正しく利用することができるようにする。

(5) 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心を持ち、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。

(6) 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付き、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。

(7) 動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気付き、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。

(8) 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。

(9) 自分自身の成長を振り返り、多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かり、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができるようにする。

